

Introduction

本来チベットは独立した自治国家であった。しかし、中華人民共和国誕生とともに「チベットは中国の領土であり、中国の一部である…」との主張をはじめた。

1949年、中国の人民解放軍はチベットに侵攻して全国土を占領し始め、ついにはダライ・ラマ法王がインドへ逃れ、1959年3月に勃発したラサ蜂起が鎮圧されるに至った。ダライ・ラマ法王に続いて、約8万人ほどのチベット人が亡命し、インド、ネパール、ブータンに定住した。難民の流入は今も続いている。現在、難民の数は、亡命中に生まれた者を含めて合計13万人以上となっている。

1959年4月29日、ダライ・ラマ法王はインド北部の丘陵地ムスリーにチベット亡命政府、つまり中央チベット行政府 Central Tibetan Administration(CTA)を新たに樹立した。1960年5月、亡命政府はダラムサラのガンチェン・キション Gangchen Kyishong(チベット語で「雪国の喜びの谷」の意)と呼ばれる地域に拠点を移した。

チベットのここが問題

★人権がおろそかにされています

思想信条を理由に投獄されたり、刑務所で拷問されたり、マトモな裁判もなしに死刑にされたりします。

★中国人(漢民族)の移民が多すぎます

政府が入植を奨励しており、すでにチベット人は少数派になってしまいました。もともと600万人しかいないため、民族としての存亡が危ぶまれています。

★信仰の自由がありません

ダライ・ラマ法王を批判しない僧侶は寺院から追放されます。一方、中国政府が勝手に高僧を任命して、信仰を強制しています。

★環境を壊しすぎています

乱獲、乱伐、乱開発でチベットの自然が破壊されました。核兵器を作り、核廃棄物の捨て場になっている疑いがあります。

2006年には、ダライ・ラマ法王に会うためにヒマラヤ山脈を歩いて越えて亡命しようとするチベット人たちを中国軍が狙撃する様子を多くの登山者らが目撃。一部始終を撮影した映像が公開されました。

<http://jp.youtube.com/watch?v=o1-y6-Rxyvc>

1989年3月、ラサに戒厳令を敷いて外界から遮断してしまいます(このときのチベットのトップが、今の中国の国家主席・胡錦濤でした)。1990年5月に戒厳令は解除されましたが、反中国的な行動に対する強攻策は今も変わっていません。

チベットではこんなことが起きている

破壊される民族のアイデンティティ

チベットの文化やチベット人のアイデンティティの破壊、人権の抑圧は、現在も着々と進んでいます。僧院などの宗教施設は形だけは復活しましたが、僧侶の数に制限が設けられ、共産党のチームが駐屯して「愛国教育」と称する講習を行なっています。そこでは、チベット人の指導者であるダライ・ラマ法王をのりすることが強制され、嫌がる者は僧籍を剥奪されて追い出されたり「分離主義者」として投獄されて拷問を受けたりします。ラサでは、96年頃から寺院を含む公の場所でダライ・ラマ14世の写真を掲げることが禁止されました。

チベット文化は教育面でもおざなりにされてきたといわざるをえません。長い中国支配の下でチベット語を教える教師が減り、したがって、チベットを学ぶ機会が減りました。この悪循環で、中国語しか話せないチベット人が増えています。多くの役所や職場を牛耳っているのは中国人ですから、中国語ができないと就職もままなりません。中国当局は「チベット人幹部がたくさんいる」と主張しますが、肩書きはあっても実権のない場合が多いのです。

環境破壊

中国はチベット高原が広いのをいいことに、核実験場をつくり、核廃棄物・産業廃棄物の捨て場に、鉄道を敷いて鉱物資源を持ち去り、貴重な野生動物を乱獲しています。森林の豊富な東チベットでの乱伐は、98年の揚子江水害の原因にもなりました。

中国支配に抵抗するデモなどは今もたえることなく、「ダライ・ラマ万歳」「チベットに自由を」などとスローガンを叫んだだけで、裁判もなしに過酷な環境の刑務所に投獄され、労働矯正キャンプに送られ、拷問を受け、死刑になる人もいます。

緩やかに進む「民族浄化」

人口が希薄なチベットに、人口過密な中国本土から大量の人口を故意に移動させる動きも盛んです。移住者は税金面で優遇を受け、高い給料を受け取る一方、地元のチベット人から仕事を奪います。移住してきた中国人が食べる小麦や野菜をつくるために、遊牧民の土地が奪われ、急激に人口が増えたために、生態系が破壊されています。

こうして中国人の数を増やしておいて、チベット人には産児制限を押しつけ、避妊や中絶を強制しているという報告もあります。

(アムネスティ・インターナショナル日本支部チベット・チームの「ちべつとニュースレター」第3号に掲載されたものを少し改変)

産児制限と中絶・不妊手術の強制

http://www.tibethouse.jp/human_rights/human34.html
甘粛省「天祝(パリ)チベット族自治州」では、1983年、2,415人の女性が不妊手術を受けており、その82%がチベット人である。また 1987年には、四川省「甘孜チベット族自治州」のザチュ県で764人の出産適齢女性が不妊手術を受け、そのうちの660人がチベット人であった。産児制限チームが農村・遊牧地域を歩き回っては、女性たちを集めて中絶や不妊手術を施している。すでに腹部の大きくなっている女性にさえ中絶が強制され、ついで不妊手術が実施された。」